

〈シンポジウム連携特集号〉

■特集「豪雨を誘因とする土砂災害の予測と住民避難行動へのアプローチ」の原稿募集

近年、広島豪雨、関東北部豪雨、九州北部豪雨等の局地的な豪雨により、土砂災害を含む甚大な自然災害がしばしば発生しています。平成 28 (2016) 年に東北地方に直接上陸した台風 10 号によって、従来豪雨災害の少なかった東北地方北部や北海道も甚大な被害を受けました。被害発生・拡大の要因として、予測を上回る激しい気象現象の発生により、避難行動の初動の遅れが指摘されています。住民への情報提供のあり方とともに、避難行動につなげるための課題を整理し、解決策を探る必要があります。

一方で、豪雨による自然災害の発生原因として、「線状降水帯」と呼ばれる継続的かつ局地的な積乱雲の発生や、日本近海の海面水温の上昇によって、強い勢力を保ったまま接近・上陸する台風の増加などが挙げられます。このような激しい気象現象は今後も比較的高い頻度で発生すると考えられ、そのため、防災・減災計画の前提条件も変化しつつあります。こうした現状を踏まえると、住民の迅速な避難行動につながる有効な予測を行い、それを活かした対策を講じることは喫緊の課題と言えるでしょう。

本特集では、近年の土砂災害の特徴とその背景にある気候変動や極端気象に起因する災害危険度予測ならびにリスクを精度よく評価する技術の動向、緊急時における住民心理を含めた避難行動等に関する研究成果や事例について広く原稿を募集します。さらに、予測結果を活用した緊急時の避難体制の構築あるいは避難へ誘導する効果的な方法等の成果についても募集します。

○特集名：豪雨を誘因とする土砂災害の予測と住民避難行動へのアプローチ

英文：Prediction of sediment-related disasters triggered by heavy rainfall and its application to resident evacuation

○公募原稿のテーマ例

- ① 極端気象に起因する土砂災害の特徴
- ② 最近の豪雨に伴う土砂災害とその危険度・リスク評価手法
- ③ 土砂災害に対する警戒・準備、啓発活動に関する取り組み事例
- ④ 災害時の避難行動に関する課題と対応事例
- ⑤ 土砂災害切迫時の情報伝達に関する課題と対応事例

○募集原稿：論文，研究ノート，技術報告，総説

○発刊予定：第 56 巻 4 号（2019 年 7 月末頃発行）

○投稿申込み：2018 年 8 月 31 日までに日本地すべり学会事務局あてメールにて送付

- ・申込みアドレス：post@landslide-soc.org
- ・メールの題名：特集号原稿申込（著者名）を記入
- ・申込み項目：題名，著者名，所属，連絡先住所，電話，メールアドレス，原稿種別，要旨（200 字程度，添付ファイルとせず，本文に入れてください）

○原稿執筆

- ・執筆要領：執筆要領が掲載されている最新の学会誌または学会ホームページ掲載の執筆要領
- ・原稿締切：2018 年 11 月 30 日
- ・原稿送付先：post@landslide-soc.org

なお、投稿いただいた原稿は通常号の原稿と同様に査読を行います。したがって、内容によっては通常号への掲載をお願いし、または掲載をお断りすることもありますので予めご了承ください。